

電気製品は電灯線から使われた —大歓迎された二股ソケット—

■ 電灯から電気機器

電気の利用は電灯から始まった。たいていの家庭は電灯用ソケット(電気の供給口)一つだけであった。

1910年頃から、電灯のほか、アイロン、電熱、扇風機などが使用されるようになってくる。電化製品を使うときは、写真のように、一度電球を外し、アタッチメントプラグを取り付けてそこにコードを付けて使っていた。このため、当時電灯をつけているときは電化製品を使用することができず、大変不便な思いをしていた。



電灯線からミシンの使用



電灯線からこたつの使用

■ 便利な二股ソケット

そこで登場したのが二股ソケットである。1920年、松下幸之助は電灯とアタッチメントプラグを同時に使える二股ソケット(二灯用クラスター)を売り出した。電気の供給口を二股にして、電灯と電気製品を同時に使えるようにした画期的なアイデア商品であった。

それ以前も二股ソケットは販売されていたが、松下幸之助は他社より壊れにくく、安価な価格で売り出し、大ヒット商品となった。ちなみに二股ソケットは、亀の子たわし、地下足袋とともに大正期の日本の三大発明品と言われている。



二股ソケット



電灯線からアイロンの使用

(浅野伸一)